

# 看護大通信

73



て、月に一度ご自分で視触診されている方もいるでしょう。とても大切なことです。自己検診だけでなく、是非専門家にもみてもらいましょう。自主的に医療機関で乳がん検診を受けている方もいらっしゃるでしょうが、自治体で行われる検診、上越市では40歳以上の女性が乳がん検診の対象となっていて、若いから大丈夫という保証もありません。20代のうちから乳がん検診、婦人科検診（上越市の子宮頸がん検診は20歳以上が対象）を受けましょう。

乳房は女性のシンボルと言われます。がん治療のために、乳房を失う女性は大変傷ついていきます。「大好きな温泉に行けない」「女性として見てもらえなくなるのでは」と涙を流している患者さんを、私もたくさん見てきました。若い人であっても年配の方であっても思いは同じなのです。周りの人たちにこんな思いはしてもらいたくないと、勇気を出して体験談をお話ししてください方もいます。自分自身に置き換えてもらえば、乳がんに対する意識はさらに変わっていくと思います。

「早期発見・早期治療」ご自分やご家族の大切な身体を守るためです。乳がん撲滅月間を機会に是非、乳がんに対する知識を深め、母娘、姉妹、友人同士で検診を受けてみませんか。

ていると思います。

しかし、残念なことに乳がん検診受診率（40歳以上・マンモグラフィおよび視触診）をみると、

20.3%（国民生活基礎調査二〇〇七年）という数字が出ています。この数字

## 乳がん検診、受けてみませんか？

がん撲滅キャンペーンの一环です。

臓器別で見ると、女性のがんの第一位が乳がんであり、その数年々増加していると言われています。自らの乳がんを公表したタレントさんも多く、数年前には乳がん患者さんが書いた自伝が映画化され話題となり、乳がんに対する私たちの意識は少しずつ変化してき

を見て皆さまはどう思いますか？ ちなみに欧米の乳がん検診受診率は70%と言われ、関心の高さが表れています。多くの先進国ではマンモグラフィ検診が推奨され、乳がん発生率は増加していても、死亡率は減少してきています。

「自己検診」といっ

性は大変傷ついていま

新潟県立看護大学  
基礎看護学領域助手  
内藤 みほ

毎年10月になると東京タワーがピンク色に変わるニュースを見たことがありませんか？ ピンクリボンをマークとした乳がん撲滅